



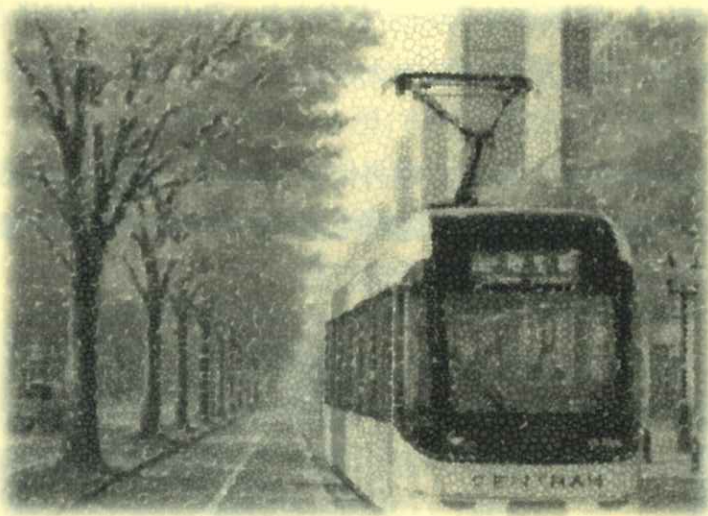
TCSW ニュース (Toyama Certified Social Workers' News)

NO.117 号 発行・編集：（一社）富山県社会福祉士会

〒939-0341 富山県射水市三ヶ 579 富山福祉短期大学 1 号館 1F 内

Tel/Fax 0766-55-5572 toyama.csw@gmail.com 2025 年 11 月末発行

鮎おこし



地域の社会福祉士として

会長 清水 剛志

2025 年 10 月 12 日（日）東海北陸ブロック社会福祉士会「災害支援協定調印式」が金沢で行われました。能登半島地震においては富山県社会福祉士会の会員のみなさんも石川県へ支援活動に赴かれていたと思います。社会福祉士会からの要請にもお応えいただいていた。かねてより、近隣県の社会福祉士会では災害時における連携協力の体制を整えるべく検討してきました。このたび、富山、石川、福井の北陸三県で災害支援協定を結ぶことが出来ました。有事の際に備え、平時からの連携協力について確認しました。さらに、静岡、愛知、三重、岐阜の東海四県の社会福祉士会にも同席いただきました。北陸と東海の相互協力についても確認できました。体制を継続していきたいと思います。

富山県においては 9 月 28 日（日）南砺市で実施された富山県総合防災訓練に富山県社会福祉士会として継続して参加しております。県内における災害が起こった際の福祉活動、災害支援を念頭に訓練に参加しています。ソーシャルワーカーとして福祉相談、生活相談が考えられます。

富山県社会福祉士会では、災害対策委員会を中心に社会福祉士会の会員の災害福祉、支援活動を援護しています。また、日本社会福祉士会の災害対応ガイドラインに沿って行うとともに、DWA T (災害福祉派遣チーム) 等へも参画しています。富山県社会福祉士会のみなさんにはそれぞれの業務や所属があり、社会福祉士会から派遣される活動は容易ではありませんが、地域の社会福祉士として社会福祉

士会の災害対策の支援活動と一緒に参加していただけたらと思います。災害福祉の研修会を企画し、地域の社会福祉士災害福祉チームの結成を目指しています。ご協力をお願いします。

ソーシャルワーカーデー2025 in 富山

令和7年7月19日(土)に富山市まちなか総合ケアセンターで「ソーシャルワーカーデー2025 in とやま」を開催しました。

富山県社会福祉士会、富山県精神保健福祉協会、富山県医療ソーシャルワーカー協会の主催で「みんなで話そう!深めよう!ソーシャルワーカーの魅力」をテーマに、3団体それぞれの会長がソーシャルワーカーの仕事と魅力についての講義を行いました。発表後はグループに分かれ、富山国際大学子ども育成学部の学生の進行で、発表をどう感じたのか、自分が考えるソーシャルワーカーの魅力とはどのようなものなのかについて意見交換を行いました。

当日は、現役でソーシャルワーカーとして活躍されている方々以外にも、学生や一般の方の参加もいただきました。魅力について話すとともに、日頃の業務や学業の経験を通して感じている悩みや醍醐味について語られる場面もあり、今後の活力に繋がるような時間となりました。



研修報告(基礎研修Ⅰ)

基礎研修は社会福祉士として共通に必要な価値・知識・技術を学び、社会福祉士の専門性を身につける研修です。基礎研修Ⅰに参加された2名の会員の方から報告をいただきました。



基礎研修Ⅰの初めての集合研修でした。講義の中で、社会福祉士は名称独占ではあるが業務独占ではない、というお話がありました。私はこれまで、この名称独占という意味をあまり意識せず業務に携わってきたことに気づきました。続く演習ではグループに分かれて、社会福祉士の職種や業務をメンバーで洗い出しました。相談員やワーカーといった多くの呼称があり、対象は高齢者や障害者など様々な場面で社会福祉士が活躍していることを改めて認識しました。同時に様々であるからこそ、社会福祉士の基盤となる倫理綱領や行動規範に忠実であることや、名称に恥じないように自己研鑽を積むことの大切さを確認することができました。引き続き、自分の軌道修正も試みながら、後半の課題に取りかかりたいと思います。

社会福祉法人 黒部笑福学園 吉田三津子

私は平成5年から医療ソーシャルワーカーや在宅介護支援センターでの相談業務、介護支援専門員としてのケアマネジメント業務を行いながら、平成18年に通信教育で社会福祉士を取得しました。その頃は、介護支援専門員の業務に追われる毎日で社会福祉士会にも所属していませんでした。昨年、自分自身のこれまでと今後を振り返る機会があり、改めて社会福祉士として自己研鑽の必要性を感じ社会福祉士会の入会と基礎研修の受講を始めました。

事前課題では、社会福祉士の倫理綱領、行動規範を通し社会福祉士としての役割や専門性を考える中で、これまでの経験を振り返ることができ、多くの気づきを得ました。集合研修では、分野が違う社会福祉士の方々と社会福祉士の専門性についてグループワークを行いました。社会福祉士が活躍している職種を挙げ、その職種の業務内容や役割、必要な知識や技術、専門性をどのように高めていくかを討議できました。

社会福祉士同士の繋がりだけでなく、他の専門職との繋がりや倫理綱領にある尊厳や人権、正義、責任などの再確認ができたことが良かったです。

同じ志を持てる仲間との出会いに感謝し、今後も基礎研修Ⅰをその仲間の方々と共に学べることをうれしく思います。



子ども家庭支援委員会

社会的養護に関する勉強会（1回目）を開催しました

富山福祉短期大学 松尾 祐子

9月27日（土）に1回目の社会的養育に関する勉強会が開催されました。ゲストスピーカーとして一般社団法人ストレングスの代表理事の本江裕子さんにお越し頂き、「地域で子どもを見守り育む居場所を目指して」というテーマでお話頂きました。

最初に参加者（13名）の自己紹介をしました。児童、障害、司法など様々な分野で働いておられる会員の方が参加されていました。

本江さんは保育園で働いている時に、富山市のお寺で里親をされている方と出会ったことをきっかけに、子ども達のために自分にできることをするという気持ちで、家族と話し合いを重ね里親になることを決めました。それからファミリーホームもされ、これまでに10数人の子どもを里子として育てられました。その20年余りの里親体験を踏まえて、地域で子どもを育てるために必要なことを熱くお話頂きました。

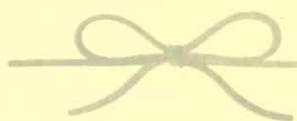
現在、本江さんは学校に行けなくなった里子のために始めた放課後等デイサービスに加えて、児童家庭支援センターaidを運営され、里親のため研修（フォスターリングチェンジプログラム）や、心身に深い傷を負っている子どもと関わる中で、もう少し小さな頃から子育てサポートすることで、少しでも虐待の被害にあう子どもを減らしたいという思いで、地域で子育てに困っている家庭の子どもを短期間預かるショートステイの受け入れもされています。必要に応じて、保育所への送り迎えができないママの代わりとなって送り迎えもされています。社会福祉士として地域で何かできるのではないかと考える良い機会になったのではないかと思います。

私自身、学生時代に児童養護施設を訪問するサークルに入っていたことがあり、約15年前に里親登録をして、お盆とお正月に児童養護施設の子どもが1～2泊泊りに来るフォスターを続けていますが、実は10数年前に中学生の子どもを里子としてお預かりしたことがあります。その子は生活していた家を離れ、転校して頑張って数カ月中学校へ通いましたが、その後は不登校となり家にこもる日が多くなりました。そのような状況の中で、本江さんのお話の中にもありましたが、周囲から「好きで里親になったのでしょ。育てられると思ったのでしょ」と思われていると感じ、私自身が行き詰まり精神的な不調に陥り、里子は高校進学時に施設へ入所することになりました。それから10数年経ち、本江さんと出会い、今は少しでも子ども達のための、里親さんの支えになればと思っています。

県外には、頼る人がいない子育て家庭においてショートステイは「虐待防止、在宅支援の切り札」として、校区に1人の里親を確保して、子育てに困っている家庭を支援している地域もあります。「どこでも実家」宣言を掲げて子育てに取り組んでいる地域もあります。

本江さんの最後のスライドには「地域で！社会全体で！一時保護所・養護施設・里親家庭を支えてください」と書かれています。他県の取り組みも参考にしながら、地域で少しでも子育て支援に取り組んでいけたらと思っています。今年度、2回目の勉強会を予定していますので、よろしくお願いいたします。





里親が育てる。
社会が支える。



「スクールソーシャルワーク研修会 in とやま」を開催しました

10月18日（土）、サンフォルテにて研修会を開催し、現任のSSWや学校教員、福祉関係者等約40名が講義や演習を通じて、スクールソーシャルワークの理論や実践について理解を深めました。今回、全国組織の学術団体である日本学校ソーシャルワーク学会との共同開催というかたちではじめて実施しました。法政大学の高良麻子先生、愛知県立大学大学院の佐々木先生、日本福祉大学の鈴木庸裕先生、北海道医療大学の福間麻紀先生、鳥取県教育委員会の福島史子先生、貴重な機会をいただきありがとうございました。

★受講者の感想★

「講義では、ジェネラリストソーシャルワークの抽象的な理論を具体的な実例をあげて説明されて、とても分かりやすかった。演習では、ケースのアセスメントにグループで取り組み、アセスメントの意味を実感することができた」

「今回の研修では、学校現場で“とりあえず家庭訪問”などの場当たりの対応にはせず、理論に基づいた対応とアセスメントの重要性について学ぶことができました。」

「今回の講義や演習は理論的、具体的で内容の濃いものでした。また、実行委員のメンバーが一つの目的に向かって協力する機会を持てたことで、ssw同志の繋がりが深まった研修会でした。」

「時間が止まって欲しい！と思ってしまうほど実りのある研修でした。特に、ミクロレベルにおける実践の“捉え直し”を行い、個別ニーズの普遍化を図り、ソーシャルアクションへとつなげるジェネラリスト実践の展開過程が強く印象に残りました。改めて講義資料を見直し、実践に活かせるよう捉え直したいと感じました。」

「ジェネラリストソーシャルワークの実践展開過程を詳しく学ぶことで、SSW としての自分の弱いところ、不足しているところが見えてきた。その場の感情で、とりあえず、動くのではなく、理論を踏まえたソーシャルワーク実践ができるよう力を高めていきたい。」

「理論を踏まえたスクールソーシャルワークを行うには、アセスメントが重要な鍵となることを講義で学び、演習においてグループで事例のアセスメントに取り組んだことでより実感できました。“どうするのかの前に深いアセスメントを！”心に残りました。」



高良先生



佐々木先生

11/3(月・祝日) 介護の日フェスティバルに参加しました

11/3(月・祝日)、富山市婦中町のファボーレ富山で開催された令和7年度介護の日キャンペーン活動「介護の日フェスティバル」にて、スクールソーシャルワーカーや成年後見制度の相談・啓発ブースを設けたり、ステージで社会福祉士会の紹介をしたりしました。



介護の日フェスティバル/介護の日inとやま
2025 - YouTube

www.youtube.com

私のおススメの本

下記のアンケートから会員の方から募集中です。おススメの本や漫画など大歓迎です。事務局メールで原稿をお送りいただくことも可能です。みなさまのおススメを心待ちにしております。

題名 『宇宙兄弟』

作者：小山 宙哉

★紹介文★ ※『宇宙兄弟』公式 WEB サイトより抜粋

2007 年より『モーニング』(講談社)にて連載開始。30 歳を超えてから「宇宙飛行士になりたい」という大きな夢に挑戦するムッタと、そんなムッタよりも一歩先に夢を実現して月面に降り立つ弟・ヒト。そんな 2 人を中心に、宇宙を目指す仲間たち、それを支える人々が織りなす濃厚な人間ドラマが好評を博し、連載が進むほどに人気は爆発的に広がる。2011 年には、第 56 回小学館漫画賞(一般向け部門)および、第 35 回講談社漫画賞(既刊 45 巻)で累計 3400 万部(電子含む)を超える大ヒット作となった。

主人公のムッタを子どもの頃から応援している「シャロン」という女性の天文学者が登場します。ある時、シャロンは ALS (筋萎縮性側索硬化症) を患ったことで、生きる意味を見失いました。その時、ムッタがシャロンへ「生きてて欲しい」と伝えるシーンが印象に残っています。子ども時代にシャロンから「誰かに、生きる勇気を与えるために生きているのよ。誰かに勇気をもらいながら。。。と話してくれていたのを覚えていたのです。人が他者とつながりの中で生きていることを表現しているセリフだと思います。「あなたがいるから、勇気ができる」という言葉は、誰もが感動できるのではないのでしょうか。他にも名シーンや名セリフがあるので、興味ある方はご一読ください。(匿名)

事務局からのお知らせ

事務局へのお問い合わせは、E-mail またはお電話でお願いいたします。

(土日・祝祭日を除いた 10:00~15:00)

連絡先 Tel/Fax : 0766-55-5572 E-mail : toyama.csw@gmail.com

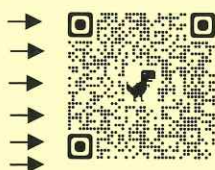
会員数 515 名 (令和 7 年 10 月 末日現在) 研修を受け自己研鑽に努めましょう。

※講演会のお知らせ・・・12 月 18 日(水)に能登半島地震災害についての公開講演会を開催予定です。

(詳細はホームページでお知らせします。)

★アンケート★

皆様のご意見を、鰯おこしに反映させられたら
と思います。お気軽にご意見をお寄せください。



アンケートは
こちらから



編集後記

全国各地でクマの目撃や被害が相次いでいます。環境省のデータでは、今年度のツキノワグマの出没件数(本州以南)は、平成 21 年度以降で過去最多となっているようです。最近のニュースでは、私たちの生活圏でもクマの目撃情報が出てきています。出先によっては、クマに遭遇しないか注意して出かける必要があります。富山県のホームページではクマの出没情報を、ツキノワグマ出沒情報地図【クマつぶ】で確認することができます。気になる方は、ぜひご覧ください。

(原田)